

様式 13

論文の概要および審査結果の要旨

氏名：草野 知美			
学位の種類：博士（看護学）			
学位記番号：甲第2号			
学位授与の日付：2021年9月17日			
学位授与の要件：関西福祉大学大学院 学位授与規程第3条第2項			
研究科・専攻：看護学研究科看護学専攻			
学位論文題目：自閉スペクトラム症のある子どもに特性や診断名を伝える母親の体験とその過程を支援するアセスメントツールの開発			
論文審査委員	主査：	泊 祐子	（関西福祉大学 教授）
	副査：	堀 理江	（関西福祉大学 教授）
	副査：	川西 千恵美	（関西福祉大学 教授）

論文の概要

本研究は、自閉スペクトラム症(Autism Spectrum Disorder：以下 ASD)のある子どもの親が子どもに行う告知に関する研究を3段階に分けて行ったものである。まず ASD 児への告知に関する実態について文献研究を行い、次に親が ASD のある子どもに特性や診断名を伝える過程を明らかにすることを目的とした面接調査を行った。その結果を踏まえ、必要な看護を見出すためのアセスメントツールの開発を行った。

第1研究では、文献検討を行い、ASD 児への告知に関する実態を把握し、今後の課題を明らかにした。その結果を基に、インタビューガイドの作成を行った。第2研究では、知的障がいのない ASD と診断を受けた子どもに特性や診断名を伝えた経験がある母親を対象に半構成面接を実施し、得られたデータを質的記述的に分析した。第3研究では、第2研究を基に『アセスメントツール試案』を作成し、病院で ASD のある子どもへの看護経験を有する看護職と地域で ASD のある子どもへの看護経験を有する看護職にインタビュー調査を行い、適切性を検討した。それを基に『特性・診断名を伝える過程で揺らぐ母親を支えるアセスメントツール』を開発した。

研究結果について、第1研究では、1)子どもへの告知の実態、2)告知に対する親の思いや考え、3)告知による子どもへの影響が大きいことが見いだされた。告知は小学生から高校生以上まで幅広く、母親により行われていることが多かった。

第2研究では、母親による ASD のある子どもへの特性・診断名を伝える過程は、【子どもの特性を受容することへの揺らぎ】を母親が経験しながら【社会生活に困難を抱える子どもとの直面】し、【ありのままの承認と子どもへの提案】や【家族や周りとの調整】を繰り返す、【診断名の告知と葛藤】、【自立に向かう子どもとの並走】という過程をたどり、特性や診断名を伝えることは、幾度も行われていることが明らかになった。

第 3 研究では、特性・診断名を伝える過程の構成要素を基に、時間、アセスメントの視点、アセスメント項目、看護の視点から構成し『アセスメントツール試案』を作成し、看護職へ適切性の検討を行った。また、支援ニーズのある対象者の選定は、母親、子ども、社会とのつながりに関する条件を設定した。

これらの結果を基に、看護師が初めて出会う母親の状況を的確にアセスメントできる『特性・診断名を伝える過程で揺らぐ母親を支えるアセスメントツール(確定版)』を開発したことが本研究の新規性である。

審査結果の要旨

申請者は、知的障がいのない ASD 児自身が自分の特性を理解する重要性に気づき、親が子どもに特性や診断名を伝える体験から支援のアセスメントツールの開発という課題に取り組んだ。本研究により開発された『特性・診断名を伝える過程で揺らぐ母親を支えるアセスメントツール(確定版)』が、今後、看護職により用いられることで、ASD 児が自分自身の理解につながり健やかな成長発達につながる貢献ができると考える。

審査委員会は、研究成果の学術性、論理性、倫理性の保証を確認し、看護学への学術的貢献、及び人々の健康福祉への貢献について、本論文が博士(看護学)の学位授与するに値するものと認める。